

26

Yuri's Talk
Oct 2016 Vol.26

由友^{ゆう}

A large, bold calligraphic character set '霜降' (Fukuryū) is centered within a rectangular frame with an ornate, gold-colored border. The characters are written in a thick, expressive black ink style.

佐藤果織作

二四節気から季節にちなんだ言葉を選びました。朝に霜が降り始める頃ということです。10月23日頃、晩秋で紅葉シーズン。鳥海山はすでに冠雪をいただいていることでしょう。静寂観を感じる季節です。

(佐藤 一成)

新院長あいさつ

院長
佐藤 一成



院長に就任して3ヶ月が過ぎました。いわゆる、ハネムーン期間は終了です。

平成28年7月9日に第120回秋田県農村医学会学術大会が秋田市のJAビルで開催されました。厚生連9病院が持ち回りで担当病院となりますが、今回は雄勝中央病院でした。一般演題79と他にワークショップ、特別講演、学会賞講演、研究班報告の発表がありました。このうち当院からは、一般演題に緩和ケア、小児母性、入院・退院支援、包括ケア、医師セッション、感染、安全・危機管理、放射線、および検査の9部門に11、ワークショップ1、および研究班報告1の発表が行われました。発表者は医師2名、看護師7名、薬剤師1名、放射線技師2名、および検査技士1名の計13名でした。発表者、共同演者の皆様、お疲れ様でした。来年はいよいよ当院が担当です。

今回の担当病院長は、活発な質疑応答で学会が盛り上がったと総括していましたが、私も同感で、頻繁に質問の手が上がるのを目にしました。質疑応答は学会の「花」で、会場が引き締まります。

ところで、秋田県は、「問い」を発する子供の育成」を教育方針に掲げているのをご存じですか。「公の場で自分の考えを積極的に発言する」、「問題を見つけて他者との関わりを通じて主体的に問題を解決する」、能力の涵養をめざすものです。最近聞くようになったアクティブ・ラーニング（能動的学習）と同列の言葉です。しかし、実はこれ、大人にも必要な能力だと思いませんか。その意味で、学会は良い訓練の場だと思います。学会で質問する場合は、発表内容をしっかり聞き、自分の知識と対比し、素早く考えをまとめ、勇気を持って挙手し、筋道良



く質問し、納得する回答を求めます。まさに能動的取組です。緊張や葛藤で多くのエネルギーを使いますが、達成感はそのに見合うほど大きいのではないでしょうか。

ご存じのように本県の児童生徒は、文科省の調査で何年も前から学力と体力の両面で大変優れていると評価されています。近所や皆様の子供達は、能動的学習で訓練を重ね着実に力を付けてヒタヒタと我々の後ろに迫ってきています。嬉しくかつ頼もしくあるものの、我々大人は安閑としているわけにはいきませんね。

第64回

日本農村医学会 学術総会を終えて

菊地 顕次

平成27年10月22日、23日の両日、秋田市において第64回日本農村医学会学術総会を開催しました。秋田県での開催は、平成16年の第53回大会以来11年ぶり6度目ですが、幸い2日間ともに秋晴れの好天に恵まれ、また全国から多数の学会員の皆さまにご参加いただき、盛会裡にこの学術総会を終えることができました。厚く御礼申し上げます。

今回の学術総会のテーマは「少子高齢社会と地域医療―秋田県の挑戦―」でした。その意図は、少子高齢社会と人口減少が全国で最も速いスピードで進行している秋田県での開催であり、また、この問題は秋田県



のみならず今や全国どの地域でも共通した問題となっており、地域の公的医療機関である全国の厚生連病院が主要な会員病院となっている本学術総会においてこそ、取り上げられるべきテーマではないか、との思いからでした。

このテーマの趣旨に沿って、特別講演、招待講演、教育講演、シンポジウムおよびワークショップを企画しました。いずれも卓越した講演者、司会者、シンポジウムおよびワークショップの演者を得て、加えてご参加いただいた学会員の皆さまのご支援・ご協力のもとに、熱気溢れる、そして幾多の貴重な示唆に満ちた有意義な機会にさせていただいたことに對して心から深く感謝申し上げます。

会員による一般演題のご発表は465題（口演186題、ポスター279題）を数え、本学会では最多の演題数となり、秋田での開催を盛り上げていただきました。しかし、限られた会場の関係で、口演からポスター発表へ変更させていただいた演者の方もおり、必ずしもご希望に沿うことができなかった点については大変申し訳なく存じております。ランチョンセミナーも12題と充実し、各会場ともに盛況となりご協力あり

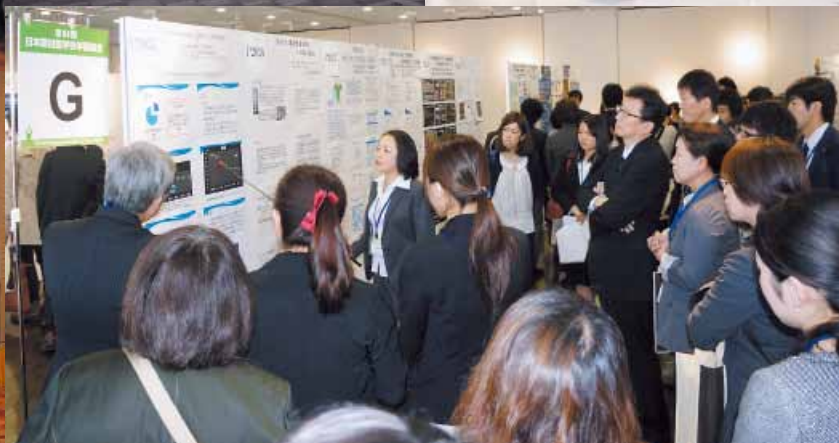


がとうございました。

一方、会員懇親会は、「秋田竿灯」の迫力ある演技や「なまはげ太鼓」の力強い演奏など、秋田色を前面に出した演出で、秋田の誇る郷土料理「きりたんぼ」と銘酒の数々とともに、いつまでも記憶にとどめていただけのものと確信しています。

今回の学術総会は、学会事務局のみならず、秋田県厚生連本所ならびに県内厚生連8病院、そして何よりもまず当院の職員の皆さま方の絶大なるご支援とご協力なくしては到底このように開催することはできませんでした。この場をお借りして改めて深く感謝申し上げます。こうした全国学会を職員一同が一致団結して開催できましたことは、由利組合総合病院の底力を遺憾なく発揮できただけではなく、帰属意識や一体感といったものを職員の間に広く醸成することができた、またとない絶好の機会であったと思っています。

次の第65回学術総会は、本年10月27日、28日の両日、松阪中央総合病院名誉院長玉置久雄先生の主催により三重県の伊勢志摩で開催されます。本学会のご盛会をご祈念申し上げます。第64回日本農村医学学会学術総会の報告といたします。



市民公開講座

講演



第100回芥川賞作家 南木 佳士 氏



秋田大学医学部教授 長谷川 仁志 先生



秋田大学学長 澤田 賢一 先生



日本大学医学部教授 後藤田 卓志 先生



バイオファーム研究所所長 遠藤 章 先生



JA秋田しんせい代表理事組合長 畠山 勝一 氏



日本医師会副会長 今村 聡 先生

病院祭 2015

病院祭20回目 元気で明るい地域をめざして

11月第三土曜日に、恒例の病院祭が開かれました。今回は『元気で明るい地域をめざして』をスローガンにして出演者もスタッフも気合を入れてがんばりました。各部会に分かれて、いろいろな準備を終えていよいよ本番です。まず、ホール内に響き渡る、威勢の良い石沢太鼓で始まり、JAしんせい女性部の皆さんの歌と踊り、鶴舞小学校、仁賀保中学校、尾崎小学校、新山小学校そして北中学校、東中学校の演奏、そして看護学校学生の方によるコーラスで午前の演奏は終了となりました。学生の皆さんは、老健施設などで慰問しているときと同じように、患者さんをいたわるようなすばらしいハーモニーを奏でてくれました。また、いつものように、子供や孫の姿を一目ようと多くの地域の皆さんが駆けつけてくれました。そして、恒例の餅つきを行い、つきたての餅は会場の皆さんに振舞われました。その後、院長とのじゃんけん大会が行われ、勝ち抜いた人たちに豪華な景品が渡されました。JAからも景品を提供してもらい、子供も大人も関係なく参加でき、大変好評でした。同時に救急隊による救急車内の公開と救急蘇生実演コーナー、職員によるポップコーンや風船のサービスコーナー、お茶コーナー、チャリティバザー、JA物産即売、介護用品、健康相談コーナーなども行われました。

午後は、仁賀保高校吹奏楽部の皆さんのすばらしい演奏で病院祭は幕を閉じました。多くの方々の協力と参加を得て、盛会裏に終了しました。ありがとうございました。



演奏会



演奏会



即売コーナー



餅つき



由利本荘看護学校コーラス



演奏会



大じゃんけん大会



餅つき



救急車展示



演奏会



石沢太鼓



パステルアート展・体験



即売コーナー



わたあめコーナー



チャリティーバザー



救急コーナー「AED体験」



喫茶コーナー

第7回由利組合総合病院

地域医療連携 運営会議

院長 佐藤 一成



はじめに

平成28年7月22日午後6時から本荘グランドホテルを会場に、第7回由利組合総合病院地域医療連携運営会議が開催されました。その概要をご報告します。

《次第》

1. 開会

当日は、由利本荘医師会の会員33名と事務局職員2名に加えて当院職員39名の出席のもと、当院副院長で由利本荘医師会副会長の朝倉健一の司会で会が進められました。

2. 挨拶

はじめに私が本運営会議発足の経緯および今回に至るまで本会議で報告・協議事項などについて概要を説明しました。

そのうえで、今春から当院外来の患者相談窓口の機能を拡充し、患者さんの利便性を高めたこと、また、昨年に導入された新しいアンギオ装置が順調に稼働しており、本会議でその診療実績を報告するとともに、地域の医療機関の皆様にもご活用をお願い申しあげました。

つづいて、新たに由利本荘医師会会長に就任された渡邊 廉先生から、当地域の医療構想策定会議で、素案が作られたこと、「ハートフルネットあきた」ならびに「ナラティブブックあきた」などメディカルネットワークを利用しながら地域医療連携を推進する旨ご挨拶がありました。さらに、由利本荘歯科医師会会長 鈴木文登先生から歯科医師会は在宅歯科医療連携室を立ち上げ、訪問歯科診療の拡充に取り組んでおり、人材育成によりいっそう地域の医療連携の一端を担うべく活動続けるとのご挨拶がありました。

3. 報告事項

(1) 地域医療連携状況について

由利組合総合病院医事企画課課長 高橋大介が以下の報告を行いました。

- ① 他医療機関からの紹介率：25年度24・6%、26年度27・6%、および平成27年度28・8%と年々上昇してきています。
- ② 紹介患者の科別推移：医師数の減少な

どで前年割れの診療科もありますが、概ね増加傾向にあります。なかでも歯科口腔外科では近年紹介と逆紹介の両方が増加傾向にあり、歯科の連携が深まりを示すと考えられます。③ 紹介患者の受入窓口別の推移（平成17年）：連携室経由の割合が高くなってきましたが、一方で外来に直接来られる患者の割合が下げ止まりのような状況となっています。今後、連携室の前方連携の機能をより高め、スムーズな紹介受け入れの体制を築けるよう諸先生のご意見を伺いながら取り組みを進めます。④ 逆紹介の状況：平成27年度の逆紹介率は34・5%と前年度をさらに上回ることが出来ました。⑤ 開放型病床の利用実績と高度医療設備の共同利用実績：開放型病床利用率および高度医療設備利用率のいずれも前年を下回り、余裕があります。今後なお一層のご活用をお願いいたします。利用については、気軽に当院地域連携室にお問い合わせ下さい。

(2) 地域連携に関するアンケートについて

由利組合総合病院地域医療連携室看護師長 高橋律子が以下の報告を行いました。

地域の医療機関との連携をさらに強化・発展させていくためのアンケート調査を実施しました。調査期間は、平成28年6月8日～平成28年6月23日で、由利



本荘市・にかほ市の歯科を除く64医療機関にお願いしました。49医療機関から回答があり、回答率は76・5%でした。①患者の紹介、逆紹介のしやすさについて：「とてもしやすしい」が30・6%、「しやすい」が53・1%で概ね良好でした。②紹介患者に関する経過報告はきちんとされているかについて：「どちらともいえない」が10・2%、「あまりされていない」が10・2%という評価でした。今後、経過の長い患者に関しては、医師に積極的にはたらきかけを行い、確実に経過報告書を出すようにしたい。③「あきたハートフルネット」に関して：現在参加機関は少ないものの、昨年度の当院での登録件数は148件に達した。これは、紹介元の登録患者の増加を反映していると考えられる。今後さらに医療機関同士の連携がスムーズに行われ、地域全体で一貫した、より質の高い医療が提供できるように貢献したいと考えている。④地域医療連携に関する質問と回答：表のようにお答えしました。これ以外にも、ご意見や感謝のお言葉を沢山いただき、お礼を申し上げます。今後も連携室をご利用いただけるよう努力してまいります。

(3) 訪問看護ステーションの利用状況について

由利訪問看護ステーション看護師長

鈴木知栄子が以下の報告を行いました。

・活動状況：平成27年度は、10月から看護師が5名から（1名増えて）6名で活動しています。看護師1人1日当たりの訪問回数は平均2・6回、対象疾患では悪性新生物が36%で最多でした。対象者の年齢は80歳代が43%となっており、高齢者に対し多く訪問していました。地区別では旧本荘市が61%です。近隣の他のステーションの利用を進めても当ステーションを希望する患者さんには、にかほや東由利などの遠方にも訪問しています。また、矢島、鳥海は提供地以外になっていますが、この場合は交通費をいただき訪問しています。訪問時間は60分が多く63%、90分が24%と、長い時間の訪問が多くなっています。訪問看護指示書は、病院内では、癌の患者が多いことから、外科医からの指示書が多くなっています。開業医の諸先生からも多くの指示書をいただいています。利用状況については、介護利用実人数は、1、966回、医療が1、511回でした。訪問看護師1人で1日平均2・6人の訪問看護でした。

・当ステーションの特徴：併設の病院に認定看護師がおり、連携をとっています。癌患者の住宅を支えるために、緩和

ケア認定看護師と同行訪問を行っています。ポンプを使用して麻薬管理を行う患者では、在宅の看取りとなるケースもあります。家族の支えの面では、外来にある癌相談支援センターを通じて、担当看護師との連携も行っています。褥瘡の処置や人工肛門の管理が必要な患者は、皮膚排泄ケア認定看護師と連携を取っています。今年の4月からは、Ji2を使い始め、写真をとって報告・相談が出来るような体制になっています。感染の認定看護師とは、在宅での感染対策を相談しています。救急の認定看護師による、アセスメントの方法の学習会を開催してもらったり、救急受診時の連携を行っています。今後は、認知症の認定看護師との連携も行う予定です。

・他病院からの連携：秋田市の病院からの紹介では、秋田市へ出向いて担当者会議に出席することもあります。例えば、専門の医療を受けるために秋田へ行った患者が地元に戻りたいという希望がある場合、情報を得るために担当者会議に出席し、一度由利組合総合病院に転院してから在宅につなぐということを行っていました。その際は、連携室の力が大きい。専門病院から地域の病院に転院して、退院時には在宅の医師へつながり、訪問看護師が関わるというケースもあります。



退院時に、1回目の訪問看護師時は病院の医師から貰い、2回目から在宅の地域の開業医の医師から指示を貰うという動きもしています。

・頻回の訪問依頼を受けた場合：複数回の訪問が必要な患者では、1つのステーションでは負担が大きくなるため、地域のステーションが協力し、2つのステーションで訪問看護を行っています。地域の他のサービス事業所との連携も行っており、訪問看護の合間をヘルパーでつないで貰ったり、点滴は訪問看護が管理をしますが、そのほかの入浴や清潔の援助をヘルパーに依頼したりすることで、役割分担をしながら行っています。内服に関しては、薬剤師が服薬指導を行い、そのフォローを訪問看護が行うということで、色々な職種の方達と連携をしている。今後多職種の連携を強化しながら訪問看護を行っていきたいと思っています。

4. 医師会員からのご意見

○和田正英先生（すずらん診療所院長）
質問：睡眠時無呼吸症候群の診療体制について教えてほしい。

（山田耳鼻科診療部長）

どこの診療科にもかかったことがなければ、まず呼吸器内科。耳鼻科や外科など既往がある方はまずスクリーニング検

査となるので、それは耳鼻科でも外科でも対応しています。例えば、呼吸器内科に行ったとしても上気道の狭窄などがないかどうかは、耳鼻科に紹介になって検査・診療しています。

○海法恒男先生（由利本荘医師会病院院長）
海法院長からは、由利本荘医師会病院は以前から慢性期医療を行ってきたが、秋田県立リハビリテーションセンターの副所長だった佐山先生を向かってさらに機能の充実をはかっている。PT、OT、STが20名を越して、由利組合総合病院などの急性期医療の後方を支援できる体制が整ってきた。また、佐山先生、総院長、ソーシャルワーカー2名そろえてあらたに連携室を立ち上げた。連携室同士の円滑な連携に努力をしている、とのコメントをいただきました。

これに対して私が次のように述べさせていただきました。佐山先生と海法先生がお書きになった医師会病院の紹介文（JMC105号、2016June）を拝見し、貴病院の機能と先生が意図されていることを充分把握でき、これから連携を深める上で大変参考になりました。お互いの施設の機能を充分に知るといことが、最初に大切なのではないかと思います。また本日、諸先生から非常に貴重なご意見をいただきました。今私も初め

て自分の病院の実態を知ったような所もあり、一朝一夕にはいかないとは思いますが、なるべくご要望にお応えできるように取り組んで参りますので、長い目で見ていただきたいと思います。

○由利組合総合病院副院長 朝倉健一
「待ち時間が長い」、「当院の雰囲気が悪くてハードルが高い」、「ホームページの充実を希望する」、「内科系に紹介すると患者さんを帰してくれない」、ならびに「紹介状を持たせないまま、かかりつけ医に行くと患者が言われた」といったご指摘に対して会場で回答を行いました。
引き続き病院全体の問題として可及的速やかに対応して参ります。



5. アンギオ装置（Allura Xper FD 20/15）の紹介と実施状況について

昨年、由利本荘市、にかほ市から助成を得て導入した高機能アンギオ装置についてPower Pointで紹介しました。先進



的な機能を持ち、既に多くの方々の治療に大きな力を発揮しております。

①ハードの特徴について

放射線技師 後藤和宏

フィリップスアンギオシステムについて、
1. 装置の特徴：①装置の構成は、正面と側面の2管球、58インチの大型モニター、②管球は、陽極冷却効率が良く耐久性が高く長時間の手術に対応可能です。
③被曝線量は、従来の装置に比較すると3分の1程度です。

2. 回転撮影可能：①3D画像の構築（血管の形状を把握）、②東部CT撮影（Mental Artifact Reduction（頭蓋内評価）、③高分解能、高コントラスト撮影（ストレント評価）、などが可能です。

②臨床実績

由利組合総合病院 脳神経外科診療部長

須田 良孝

大学病院や県内の基幹病院の間で、主な手術の件数などを比較（Fig1）することで、当科の診療特徴が鮮明となると思われる。全体の手術件数も多いが、その中でも脳動脈瘤のコイル塞栓術や頸動脈・頭蓋内動脈などの動脈硬化性狭窄疾患のカテーテル治療が多く、脳血管内治療を積極的に行っていることが理解される。そのような状況で、昨年12月よ

りPhillips社製脳血管内治療専用biplane EPDが当院で稼働となった。本機種は各社の類似装置に比較しても、ハード面、ソフト面で圧倒的に優れた機能を有しており、日々進歩している脳血管内治療において、より安全な治療の可能性を広げることが期待される。その治療の一端を脳動脈瘤の症例で提示する。

症例1（Fig2）：40歳代女性、くも膜下出血、破裂脳底動脈先端部動脈瘤。2016年1月意識障害で秋田厚生医療センターへ搬送され、そのまま秋田大学病院へ紹介。thalamus&manillary bodyへの重要な穿通枝が絡み、脳血管内治療が望ましいと判断されたため、翌日由利組合病院に搬送されてそのまま全身麻酔下での脳動脈瘤コイル塞栓術を施行した。100-200μ前後の穿通枝が新しい装置で明瞭に認識され安全な手術が可能であった。患者さんは神経異常なくmRS0で退院された。

症例2（Fig3）：60歳代女性 脳底動脈・上小脳動脈分岐部未破裂巨大動脈瘤、動眼神経麻痺で発症し、秋田市立病院で上記と診断された。右不全麻痺も認められるようになり2016年5月に秋田大学病院に紹介された。バイパス術+母血管クリッピングでFlow reversalで自然な瘤の血栓化を促す治療方針も検討されたが、手術自体の不確定要素が少な

くない点や、手術侵襲が大きい点などを考慮して、血管内手術のため由利組合病院に紹介された。血管内手術をしても少なからずchallengeableな点があったが、全身麻酔下にステントを併用した二期的なコイル塞栓術で動脈瘤は消失し、程なく動眼神経麻痺や不全麻痺も改善して退院された。

未破裂脳動脈瘤の血管内治療の患者さん方は、秋田市、能代市、大館市や県南地区などの地域外からの紹介が少なくなく、本施設で治療数が出ている理由である。

今後ますます、大学病院を始めとする各地域の基幹病院間の連携は進むと思われる、新しいDSAを有した当院の果たせる役割は大きいと考えられる。

おわりに

今回も多くの医師会・歯科医師会会員の皆様にご参加いただき、大変有意義な会議を開催することができたと思います。地域医療構想、地域包括ケアシステムのため由利組合総合病院は引き続き連携しやすい病院、活用しやすい病院を目指して参ります。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

多数傷病者訓練



平成28年度
災害対策訓練
実行委員長
岩谷 久美子

『由利本荘市水林、国道7号線、ホテルルートイン前信号T字路にて、大型観光バス、トラック、その他車両、通行人を含む多重交通事故が発生。傷病者は推定50名。由利組合総合病院に多数傷病者の受け入れを要請：』
このような局地災害を想定した多数傷病者受け入れ訓練を、平成28年6月24日金曜日、午後2時より病院1階で実施しました。

訓練の目的は、多数傷病者受け入れ時の職員の役割分担、資機材準備、情報管理、トリアージなどの災害初期対応を検証することでした。これは、この地域唯一の災害拠点病院である当院の大切な使命です。

佐々木新事務長の『災害時に職員全員が適切に活動できるよう、訓練をやりましょう。』というご指示の元、昨年9月から15名のスタッフが準備を開始しました。そして、事務職員と外来看護師を対象に、今年の1月から6月にかけて30回近い事前学習会をおこないました。





迎えた訓練当日は、消防職員様50名、医師23名にもご参加頂き、200名規模の訓練となりました。また、訓練での職員の活動を評価して頂くために、秋田大学から4名の指導者様に来て頂きました。

訓練では多数傷病者に最善に対応するための『災害対応エリア』を参加者全員で病院1階に設置し、災害医療のコンセプトに沿って団結して活動することができました。小さな伝達ミスなどはありませんでしたが、大きなトラブルに繋がることはなく、事前学習会時より適切に災害医療を展開できました。

実践の訓練により、講義や想像では見えなかったことを体験できたと同時に、多くの課題が上がりました。そして、職員の災害医療に対する意識が高まり、今回の訓練はゴールではなくスタートになったと思います。

今後は外来に従事する職員だけでなく、病院全体で訓練に取り組んでいきたいと考えております。そして、当地域で災害が発生した際には、職員全員が協働で最善の対応を図れるよう訓練を継続し、『災害対策マニュアル』『アクションカード』などを作成・改訂していく所存です。

最後に、訓練をご支援くださったすべての方々に心よりお礼申し上げます。



菊地前院長の思い出



由利組合総合病院での 22年を振り返って

思い起こしますと、私が由利組合総合病院に赴任したのは、今から遠く22年あまり前の平成6年9月のことでした。それより前に、前副院長の進藤健次郎先生から、「病院がまもなく新築移転して、近代的な新しい病院に生まれ変わる予定だ。本荘と一緒に脳外科をやらないか」と声をかけていただいたのがそもそもの始まりでした。熟慮に熟慮を重ねた末に本荘に来ることを決断し、平成6年9月1日に着任しましたが、その後定年まで長くこの病院にお世話になるうとは予想だにいたしませんでした。

当院に在職中の22年間、そして院長を拝命してからのこの8年間に経験したさまざまなことがらが、浮かんでは消え、消えては浮かび、まるで走馬灯のように頭の中を駆けめぐっています。

まず何と申しまでも、この22年間、私は1人の脳外科医でした。くも膜下出血をふくむ多くの脳卒

中の患者さん、あるいは交通事故等で頭に怪我をされた頭部外傷の患者さん、そして悪性、良性もふくめた老若男女の脳腫瘍の患者さんに対して、メスの力を信じて救命に、あるいは病状の改善に全力を注いでまいりました。自分でも満足のいく結果が出せたこともありますし、こうすればよかった、ああすればよかった、と忸怩たる思いを残したこともありました。むしろ後者の方が多かったような気がいたします。

私が赴任した平成6年は、由利組合総合病院にとってまさに画期的な年でした。新病院竣工後の平成6年11月12日、陸上自衛隊および地元消防隊員の皆さまのお力をお借りしながら、すべての職員が総力をあげて、入院中の重症の患者さん、あるいは自力で歩行できない患者さんを、東町の旧病院から川口のこの新病院までの24キロの道のりをピストン輸送したのも、今となつては懐かしい思い出です。

それから平成9年には初めて病院機能評価を受審しました。これに晴れて合格したことは、東北地方の病院としては実に初めての快挙であり、全国でも13番目の認定病院となったわけでございます。名状しがたい誇りを感じたのは決して私一人だけではなかったと思います。

それから平成12年には国内で6例目となる脳死下での臓器提供が私どものこの





病院で行われました。このときは、直接関わった私も含めて、病院の職員一同が与えられた使命をそれぞれの立場で全うすることができたことに對して、安堵感とともに、素直に誇りと自信を感じることもできた一大イベントでした。

私が院長を拝命した平成20年以降もさまざまなことがありました。職員の皆さまのご理解とご協力によって、平成20年6月に7対1の看護配置の導入、平成21年4月にはDPCへの参入をそれぞれ無事に果たすことができました。この体制が、現在でも、病院運営にあたつてのいわば「車の両輪」としてしっかりと維持されているのは何よりのことと思います。平成22年10月には院内に保育所が開設されました。その年に入園した7か月と1歳の2人の子供さんが、今年の3月に元気に卒園し、現在地元の小学校に通っています。職員の仕事と家庭の両立、いわゆるワークライフバランスを目指しての開設でしたが、今になってみると「本当に造つてよかったな」と感じています。平成23年3月にはあの東日本大震災がありました。被災地からへり搬送で患者さんを4名ほど受け入れて、当院で治療を継続いたしました。DMATとして被災地に派遣された皆さま、災害支援ナースとして派遣された皆さま、本当にご苦労さまでした。

その年の12月には「ふれあいゆりの里」の愛称で、院内にショートステイの事業所が開設されました。病院の中にある老健施設ということで話題になり、現在も地域に大いに貢献しているのは嬉しいかぎりです。

平成25年には病院創立80周年記念式典を、病院創設の地である東町の「カダーレ」で開催することができました。昭和8年の開院以来、80年間にわたつて苦難に苦難を重ねて病院を守つてきた先輩たちの熱い思いを感じることができました。

昨年の平成27年10月には、第64回日本農村医学会学術総会を秋田市で開催することができました。演題数が530題と今までで最も多く、また全国から1、300人を超える数多くの会員の皆さまに出席していただきました。演題採用にあつての原稿の査読やプログラムの校正に携わつていただいた職員の皆さま、あるいは学会当日、会場となりましたキャッスルホテル、県民会館、にぎわい交流館で、緊張感をもって、しかし笑顔絶やさずに県外からの参加者の皆さまにしっかりと対応していただいた職員の皆さま、本当にありがとうございました。

私は本当に幸せ者でございます。すばらしい先輩、後輩、同僚に恵まれ、助けられ、支えられて、楽しく仕事をさせていただきました。大過なく無事に定年を

迎えることができましたことに改めて深く感謝申し上げます。今後は引き続きこの由利組合総合病院を支える一人の仲間として、そしてこの地域を支える一人の市民として、私なりに恩返しできれば、と考えているところでございます。皆さま方これからますますのご活躍とご発展をお祈り申し上げます。長い間、本当にありがとうございました。

菊地 顕次



佐藤前看護部長の思い出



在職中の思い出

由利組合総合病院の皆様、いかがお過ごしですか。私は、今年の3月末で定年退職してから、体調も良く平穏な日々を送っています。

病院で過ごした年月を振り返ってみますと、昭和54年4月の就職時にさかのぼります。旧病院の11病棟（脳外科・呼吸器科）にお世話になり、進藤健次郎先生と佐藤厚子看護部長に直接のご指導をいただきました。その当時は、若い人達が多く一生懸命に仕事しましたが、病棟毎のなべっこ遠足やソフトボール大会、病院旅行等で職員が良く交流し、楽しい職場だと感じたものでした。そして、本当に深いご縁があったとしか言いようがありませんが、新病院と合わせますと脳外科病棟に22年間勤務させていただきました。更に、初めての異動先も回復期リハビリテーション病棟でしたので、脳外科の患者さんからは実に多くの事を学びました。

在職中の思い出は沢山ありますが、その中でも語らずにはいられないのが、平成12年4月に起きた国内第6例目の脳死





対応となりました。それでも、亡くな
っていく方を少なからず看てきましたが、『脳死』という新たな人の死と臓器提供
という尊い意志に対峙する得難い経験を
しました。

またこの出来事から、当院職員の底力
のようなものを実感しました。故高野院
長を先頭に、医師やコメディカル、事務
職の皆が力を合わせて掛け抜けた「命の
リレー」を忘れることが出来ません。お
そらく私たちには、新病院への引っ越し
や医療機能評価受審等の取り組みを通し
て鍛えられ、培われてきた力があつたの
だと思いました。

時は過ぎて、医療も病院も厳しい時代
に入り、平成19年に看護部長として北秋
中央病院に転勤し、一年間、厚生連全体の
仕組みについて学んできました。当院に戻
つてからは、様々な課題の連続であり、怒
涛の如く過ぎた8年間でした。ふつつか
私でしたが、菊地前院長はじめ多くの皆様
に支えられたことに感謝いたしております。
平成27年10月に秋田県で開催された第64
回日本農村医学会は、皆で力を尽くした
最後の思い出となりました。長い間、本
当にありがとうございました。

今後も、由利組合総合病院の発展と職
員の皆様のご活躍を祈念申し上げます。

佐藤 田鶴子

広報委員長の「OK」に救われました。

写真室 須田さんの思い出



来年の3月で定年退職です。

今回、広報委員長（朝倉副院長）より、由友について何か書いてもらえないかと言われ、丁寧に断ろうと思いましたが、広報委員長の命令は広報委員として絶対なので書くことにしました。

1997年（平成9年）、由友1号の打ち合わせの時に広報委員長から、行事とかの写真だけでなく、病院の写真も1ページ入りたいと言われました。なんとなくこれから大変だなーと思いました。それから、一生懸命色々病院の写真をとりましたが、やっぱり大変でした。前もっていい時に撮っておかないとダメなんです。たとえば秋の由友発行前に冬の写真は撮れません。広報委員長には、病院の写真は一枚自分で決めて「これを使って下さい」とプリントを持って行きます。広報委員長は快くOKを出してくれます。このOKに救われたような気がします。本当にありがとうございます。

いろんな方向から病院を見ました。いろんな時間に病院を撮りました。いい病院です。

又、広報委員長は、会議でもアイデアがすぐ出ていろんな思いつきをします。それはとてもいい事とわかっているのですが、必ず写真が関係してきます。もちろん仕事はしますが「えーまたかー」と、よく聞こえないように軽い文句を言ったように思います。ささやかな抵抗でしょうか。

由友は今回26号です。広報誌は写真がないとあまり見てはくれません。そういう面では、少しは由友に貢献できたのだと思います。（広報委員長や広報委員のアイデアあつてのものです）最後に行事の写真やらで図々しく撮影し、なにかと職員の皆様にはご迷惑をおかけしたと思います。どうもすみませんでした。そして、ありがとうございます。※3月までは頑張りますので宜しくお願いします。

須田秀志



「いろんな方向から病院を見ました。いろんな時間に病院を撮りました。いい病院です。」

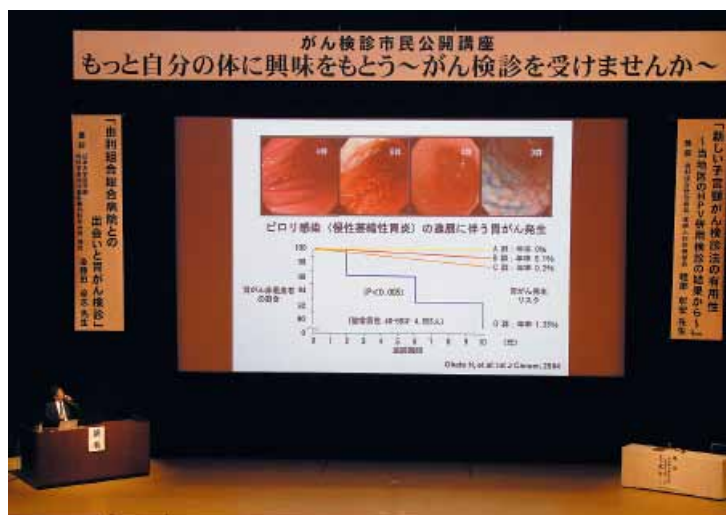


がん検診市民医学講座



9月17日午後から、カターレで由利本
庄市、にかほ市、由利組合総合病院と共
催の形で、がん検診率の向上をめざして
市民医学講座を始めて開催しました。当
地区が癌死亡率がトップクラスという汚
名を返上すべく企画されました。最初は、
草野先生による中学生ピロリ菌抗体検査
の実態を説明されました。若いうちに、
ピロリ菌を除去することによって将来の
胃癌になることを未然に防ぐことが期待

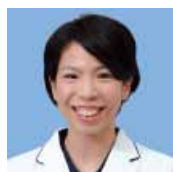
されます。続いて、軽部先生によるH
PV(ヒトパピローマウイルス)抗体検
査を併用したがん検診の取り組み状況
が話されました。より早期に子宮癌の
発見が期待されます。最後に、日本大
学教授の後藤田先生による、胃癌の現
在の状況と将来の展望について詳細に
講演してくれました。胃癌が将来的に
今の取り組みを続けることによって大
幅に減少することが予想されています。



研修医紹介

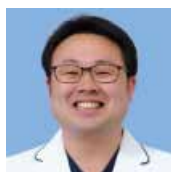


一年目



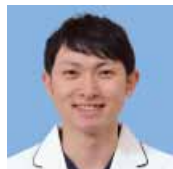
野田 基実

東京出身です。日々精進してまいりますので、よろしくお願いします。



萩原 義也

静岡から参りました。一生懸命頑張ります。



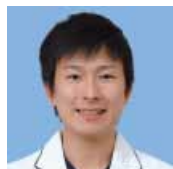
和賀 正人

毎日楽しく充実しています。常に向上心を持って頑張ります。



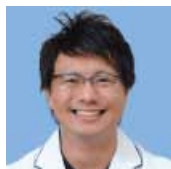
原田 俊太郎

由利での毎日、すごく楽しいです。



押切 裕之

毎日充実した研修生活を送っています。よろしくお願いします。



安藤 皓一郎

毎日楽しく研修させて頂いています。宜しくお願いします。

6名の新人研修医が新たに採用となりました。秋田大学以外からも来てくれ、研修医医局も活気に満ちてきました。新人歓迎会では、堂々と挨拶をしたあと、歓迎会に臨みました。

そして、翌日からは、早速、新人オリエンテーションが始まり、真剣な眼差しで講義を聞いていました。これから、多くの症例に遭遇することになりますが、先輩たちの助けを借りながら、自分で大いに勉強し、知識、技術を身に付けていってほしいと思います。時には、休みには周りの豊かな自然にも触れ、研修医仲間と、語り合うこともあるでしょう。当院における2年間の研修が充実したものになるよう期待しています。



秋田大学生実習

今年も、秋田大学5年生の皆さんが地域包括実習に9名来てくれました。2週間の短い実習ですが、医療のみならず、保健や福祉の実態も肌で感じてくれたと思います。地域医療の崩壊が叫ばれていますが、率先して地域医療に進んでくれる医師がいつの日か当院に来てくれることを祈っています。



ふれあいコーナー 地域と人と



1 H27.12.16

クリスマスコンサート

12月中旬に恒例となったクリスマスコンサートが正面ホールで行われました。本荘高校吹奏楽部の多数の生徒の皆さんが大変、息の合った演奏を楽しませてくれました。踊りなども取り入れ楽しい雰囲気のまま終了しました。患者さんにとっては、素晴らしいクリスマスプレゼントになったことでしょう。



3 H28.5.12

看護の日

看護の日は、21世紀の高齢社会を支えていくためには、看護の心、ケアの心、助け合いの心を、私たち一人一人が分かち合うことが必要ということから、厚生省が1990年に「看護の日」を制定しました。当院も「看護の日・看護週間（5/10～12）」の取り組みとして、外来玄関傍にブースを設置し、受診患者さんやご家族の方々に、血圧測定や健康、介護などの相談会を実施し218名の方にご利用いただき、地域の方々とふれあいの場ともなりました。

2 H28.3.25

退職者の皆様を送る会

長年、病院に在職された方の送別会が開かれました。5人の方が出席され、各々、病院での思い出を語られました。院長と看護部長には、重責を全うされ、本当にお疲れ様でした。これからの第二の人生もより健康で充実したものになること祈念しています。





4

H28.8.3

中学生ボランティア

夏休みの間、市内の中学生の皆さんがボランティアとして大勢来くれました。病院の雰囲気を感じてもらい、患者さんと少しでもふれあいを持てた時間は、きっと有意義な時間だったと思います。医療に興味を持ってくれたら幸いです。

5

H28.9.5

民謡のつどい

みんなが待っていた民謡のつどいが始まりました。点滴台を押してきた人や車いすの人で会場は満杯状態となりました。1年生と2年生のあわせて29名の由利高校民謡部の皆さんが、聞きなれた民謡を唄って踊ってあっという間の時間が過ぎてしまいました。ふだん民謡を楽しむ機会の少ない患者さんにとっては心とむひとときとなったことでしょう。



6

H28.9.11

市民ボート大会

今年で第37回を迎えた子吉川レガッタ、私が初めて出場したのは第3回の時でした。職場の同僚で本荘高校ボート部OGに勧められたのがきっかけでした。あの頃は朝練習もありまだ夜の明けないうちから、自宅から30分かけて6時からの朝練習に参加し練習後は日勤、朝の申し送りは眠くてきつかった思い出があります。でも、そんな努力が実って初出場で2位という成績を収め、それ以来ボートにのめり込んでいきました。今年の大会まで3回位の欠場で殆ど出場し、好成績が続くと組合病院女子のボートは勝つのがあたりまえと言われるようになりました。平成3年には第1回市町村交流レガッタが福井県美浜町で行われ、銀メダルを頂きました。全国大会も10か所近くの市町村に行き、本荘市以外の他県の方ともたくさん知り合うことができました。

私がここまで来られたのも、家族をはじめたくさんの方の協力があったおかげと感謝しております。参加して下さった方々本当にありがとうございます。来年は最後のレースになると思います。当院からたくさんの方の参加をお待ちしておりますので、ぜひ今から体力をつけておいて下さい。

平成16年には秋田国体に合わせてボート審判の免許をとりました。漕げなくなったら今度はみなさんに審判としてお手伝いし、いつまでもボートに関わっていきたいと思います。

阿部 百子



第1回全国市町村レガッタ美浜大会にて準優勝



今年の第37回子吉川レガッタにむけて休日練習

TOPICS トピックス

話題いろいろ

October 2016



防災・消火訓練

1 H27.9.18

定例の防災・消火訓練が行われました。火災発生時には、すみやかな患者さんの安全な場所への避難が必要です。手順に従って迅速に行動していましたが、夜間などに果たして適切に実施できるか若干の不安が残ります。日頃から十分に心がけたいものです。



癌化学療法セミナー

2 H27.9.29

癌患者さんへの化学療法は、年々進歩しており、生存率の向上に寄与しています。このセミナーはその治療法の最近の話題を取り上げ、毎年開催されているものです。日本一の癌死亡率の汚名を返すべく、皆、熱心に聞き入っていました。



救急オリエンテーション

3 H27.10.6~10.7

当地区の救急患者のほとんどが当院へ搬送されます。医師、看護師のみならず救急隊の皆さんも参加して、救急に関する話題を取り上げるものです。救急診療の充実、地域の皆さんに大きな安心を与えることにつながります。

4 H27.12.4

院内学術発表会

院内学術発表会が行われました。専門学会と違って、各部門が身近な問題を取り上げて発表する会です。よくまとまった発表が続き、質問にも丁寧に答えていました。優秀な発表者は、病院忘年会の場で表彰されました。



5 H27.12.18

病院忘年会

一年の締めくくりとして、多くの職員が参加して盛大に忘年会が行われました。恒例の出し物では、今年の流行を取り入れたものがみられ、会場の笑いや拍手を誘っていました。研修医も参加し大いに楽しんでいました。



6 H27.12.22

永年勤続表彰式

20年以上勤められた方々への表彰が行われました。若い人たちの模範となり、適切な指導によって病院の発展に貢献されたことに感謝いたします。これからも引き続きがんばっていただくことを期待しています。



7 H28.1.27

インフル・ノロウィルスセミナー

毎年、集団感染を繰り返すインフルエンザ感染とノロウイルス感染のためのセミナーが開催されました。インフルエンザはワクチン接種の普及が、感染拡大予防に効果がありますが、ノロウイルスはワクチンや特効薬もなく、地道な予防と汚染物の処理が必要となります。基本的な知識から最新の対策について保健所からも発表してもらいました。院外からも多くの医療関係者が熱心に聞き入っていました。





臨床研修修了証 授与式

8 H28.3.22

当院での初期研修を終えた
名が修了証授与式に臨みました。
みな、充実した研修を終えたとい
う自信に満ちた顔をしていま
した。今後、各病院でさらなる
専門研修を経て、立派な臨床医
になることを切望しています。



新入職員 オリエンテーション

9 H28.4.4

4月1日に辞令を受けてから
新入職員のオリエンテーション
が講堂を使って行われました。
院長、事務長、看護部長の挨拶
の後、医療安全、感染対策など
医療関係者として必要な項目に
ついて講義を受けてもらいまし
た。皆は、一言も聞きもらすま
いと熱心に聞き入っていました。



新入職員歓迎会

10 H28.4.5

講堂において、病院全体で採
用された新入職員の歓迎会が行
われました。不安と希望の交錯
する中で、代表の人がこれから
の抱負を述べました。病院の発
展は皆さんの若い力にかかって
いますので、初心を忘れずがんば
ってください。



医療安全研修会

11 H28.7.12

春の基礎研修会では、全員に
心臓マッサージの実技訓練をし
てもらいました。急変した患者
に対して効果的な心臓マッサー
ジを行うことは、普段から訓練
していないとなかなかできるも
のではありません。当院の医療
従事者は、人形での実地訓練を
とおして、肌で覚えてもらった
ようです。

TOPICS トピックス

話題いろいろ

October 2016



接遇研修会

12
H28.7.26

病気を抱えた患者さんにとって、医師や看護師の接する言葉や態度は、ときに不安感を増すこともあります。接遇は医療技術以前の問題です。うわべだけではなく心からの思いやりが医療従事者には必要です。この研修会をおして、その意義が理解されることを期待しています。



解剖体慰霊祭

13
H28.8.4

8月始めに、解剖させていただいた方々の慰霊祭が行われました。解剖は、医学の基本であり、不幸にして亡くなられた方の原因を追求するために行われます。最近では、画像所見の発達などによって解剖自体が少なくなっています。しかし、生前の診断の正確さや不明だった点も解消されることがあります。これからの医学の発展に必ずや貢献されるものと信じています。



由利本荘・にかほ地域緩和ケア研修会

14
H28.8.6

癌患者さんへの緩和ケア研修会が行われました。痛みを和らげる治療の進歩はありますが、心のケアについては、まだまだ十分でないのが現状です。グループワークを通じて、各職種の連携の重要性が認識されたと思います。





看護部長
新妻美貴子

人を育て「看護の質の向上」を 図るための努力を。

このたび看護部長を拝命いたしました。

どうぞよろしく願います。看護師を目指したのは、高校時代進路を決定する時期に、旧由利組合総合病院の6病棟（その当時胃腸科病棟）祖父の入院と死亡に立ち会い、その時の看護師の姿を見て職業として考えてもいいなと単純に思ったのがきっかけだったと思います。高校卒業後は東京都立広尾看護専門学校に入学し学ぶ中で、看護師の魅力、看護ケアの重要性についての認識を深める形になりました。看護師として36年の間に多くの経験をさせていただきました。管理という立場ではまだまだ未熟ですが、皆様の力を借りながら努めてまいります。前任の佐藤看護部長は多くの問題に取り組み実現して下さいました。「人材は人財に育てる」ことを看護部長の仕事と

公言し尽力されました。私の使命は、前部長の思いを継承し、人を育て「看護の質の向上」を図るための努力をすることと考えます。看護職の倫理綱領にもありますように、看護師は専門的な知識と技術を持って看護を提供していく使命を受けています。

ところで、「質とは何か」をもう一度考えてみました。「一般的に仕事の本身や完成度を指す」とあり、提供される製品やサービスについて、買い手側である顧客が求める特性との合致度と考えられ、合致度が高ければ品質が高いということになります。医療も看護もサービスという位置づけであると考えると買い手というのは、病院を訪れる患者さんや家族で、患者さんや家族が求める特性というのは、苦痛の排除・健康増進・心身の安定など

個人によって異なるとは思いますが、安全であり、安心であり、病気が治ることが一番ではないでしょうか。病気が全て治るとは限りませんが、患者さんが治療を受ける過程の中で、看護師は専門的な知識と技術を持って、安全・安心を保証することはできます。患者さんひとり一人に寄り添い、思いに添った看護の提供が質に繋がると考えます。このような看護への思いを伝えながらこれからも進んでいきたいと思っています。看護の質を求めて努力していくことは、自分が成長することだと思えます。より良い人間となるために、より輝ける自分になるために、今日の先の未来の自分のために力を合わせて頑張りましょう。どうぞよろしく願います。



診療部長
平宇 健治

「この先生と一緒に働きたい」
「この先生のようにになりたい」
そう思えるような医師が病院にいます。

この度、診療部長を拝命いたしました。医局長として3期目となる今年度も、医局と多職種との連携を深めて病院機能が円滑に進むよう、頑張りますのでよろしくお願いいたします。

10年前には、研修医を含めると1000名を超える医師が在籍していましたが、現在は70名程度に減少し、日常業務は多忙を極めています。厚生労働省発表の「人口10万対医療施設従事医師数」では、全国平均は226・5人ですが、秋田県は207・5人と1割程度下回っています。東北六県はいずれも全国平均を下回っており、医師不足にあえいでいます。このため、大学からの派遣医師増員は難しく、『病院全体で優秀な研修医を育て、スタッフとして活躍してもらう』ことに重点を置いています。平成25年度の1年目研修医ゼロ、という大惨事から、昨年度は4名、今年度は6名とよくぞ立ち直った

ものと思います。指導医はもちろん、各職種の皆様のご尽力の賜物と感謝申し上げます。

東北各県の研修医向け病院説明会で感じたことがあります。「秋田県の病院は研修医教育に熱心である」ということです。当院でも、臨床研修委員会を中心に勉強会や実習を開催し、優秀な研修医育成に奮闘しています。しかし、「他病院との違い」は出ていません。数だけではなく、「優秀なスタッフ予備群となり得る学生」を発掘・獲得する方法を模索しています。

では、学生が研修病院を選ぶ基準は何か？私は、「この先生と一緒に働きたい」「10年後や20年後には、この先生のようにになりたい」と思えるような医師が病院にいます。将来のロールモデルとなりうる医師に出会うことによって、自分の進路も早々に定まり、勉強や

研修にも熱が入ると思うからです。

また、「優秀なスタッフ予備群となり得る学生」を見出すコツは何か？私は、「大きな病院で菌車になるのではなく、自分の仕事のみならず全体が見渡せる仕事を好む」学生を発掘することだと思います。小人数で治療にあたる際、治療のゴールが把握しやすく、自分がやるべき仕事に分かります。しかし、大人数では「自分の仕事分」だけしか分からず、全体が把握しづらいために達成感が乏しくなると思います。医療知識だけでなく、仕事のやりがいをも求める貪欲な「将来のリーダー」の卵を発掘したいものです。

偉そうなことをいう私、「この先生と一緒に働きたい」「10年後や20年後には、この先生のようにになりたい」と思えるような医師ではありません。しかし、できるだけ理想に近づけるよう、頑張ります。

あなたのそばにあります。
がん相談支援センター

日本人の2人に1人が、がんにかかるといわれる時代。誰だつてがんにかからない方がいいに決まっています。でも、もしあなたが、あるいは家族や大切な人が「がん」と言われたら、一人で悩まず相談してください。

当院1階のJA組合病院支店の隣に「医療相談室」と「がん情報センター」の部屋があり、医療ソーシャルワーカーと看護師が、がんに関するご相談を無料でお受けしています。直接お越しいただく方法と電話でお話を伺う方法があります。

がんに関する悩みや自分の体のことを打ち明けたり、相談したりすることに抵抗があるかもしれないが、ご相談いただいた個人的な内容が外に漏れてしまうことは一切ありません。

サロン「おひさま」を開催しています

がん相談支援センターでは、参

加された皆さまに「光が届きますように」という願いを込め、がん患者様やご家族、関心のある方を対象に毎月、サロン「おひさま」を、がん相談支援センターで開催しています。

緩和ケア認定看護師、認知症看護認定看護師、作業療法士、心理療法士、薬剤師や管理栄養士などの院内の専門家による学習会の年間計画を院内関連部署に掲示したり病院ホームページなどでご案内しております。

また、年1回は院外で行っており、今年は5月23日(土)に、アクアパルを会場に開催します。申し込みが必要ですのでお気軽にお問い合わせください。



茶話会



緩和ケア認定看護師の学習会

ご利用しているご家族のW様の声

母が肺がんになり不安を抱いていた時に、親身になって相談に乗ってくださったのが「がん相談支援センター」でした。家族以外にも、母のことを心配し、サポートしてくれる人が病院内にいるという心強さと安心を感じました。

今、母は入院しながら緩和ケアチームのお世話になっております。主治医の先生や回診に来てくれる先生、看護師、薬剤師、リハビリ、栄養士など、たくさんの方々に支えられ入院生活を送っています。

ターで毎月、開催されている茶話会（サロン「おひさま」）にも誘っていただいて、大好きなおしゃべりをしたり、パステルとアートを描いて気分転換をしながら

ら入院生活を送っています。

母はこの頃、遠い昔にがんで亡くなった父のことをよく思い出すように、「今のようなケアをさせてあげたかった」とよく言います。病気になるってしまったのは残念ですが、がん相談支援センターが窓口となつて緩和ケアを受けることができ、母らしい生活ができていることに心から感謝しております。



Wさんが描いた作品「さくら」



Wさんが描いた作品「さくら」



がん相談
支援センター
武田 裕子



ごはんが食べられなくなったら どうしますか？

高齢者が認知症や誤嚥性肺炎などの理由で食事が食べられなくなってしまうのでしょうか？胃ろうなどの経管栄養を考える前にできることはないのでしょうか？海外の文献によると認知症患者に胃ろうを造るメリットはないという報告が多い中、日本では認知症の方や誤嚥性肺炎で入院した方に安易に胃ろうなどの経管栄養が選択されるケースも見受けられます。もしご家族にまだ口から食べてもらいたいと思ったらどうしたらよいのでしょうか。

① 食欲を低下させる病気が隠れていないか？

甲状腺機能低下症や低カリウム血症などの電解質異常、慢性硬膜下血腫などの脳疾患、亜鉛欠乏などは食欲を低下させることがあります。便秘や認知症の興奮症状など意外な原因もあります。主治医の先生に相談してみてもいいかがでしょうか。

② 食欲を低下させるお薬を飲んでいないでしょうか？

お薬の中には食欲を低下させるものがあります。認知症の薬や睡眠薬、またお薬の量が増えてなくても脱水や腎機能低下などにより効果が増強されている場合もありますので、薬剤師さんに相談してみてもいいでしょうか。

③ 口腔内のトラブルはないか？

歯を喪失してしまったり、入れ歯が合わないと感じにくくなったり、痛みにより食欲が低下することがあります。また舌苔などの口腔内の汚染もその原因となり口腔ケアが有効です。医療保険も使えますので、歯医者さんに相談してみてもいいでしょうか？古い入れ歯は調整できますので合わないなくなっても捨てないようにしてください。入れ歯の使用や調整はADL（日常生活動作）の向上につながることもあります。

④ 食物が肺に進入してしまう「誤嚥」を起こしていないでしょうか？

むせ込みや咳をしていなくても「痰の量が増えた」、「食事に時間がかかる」、「口腔内が汚れている」などが見られる場合、誤嚥している可能性があります。誤嚥しているようであれば水分にとろみをつけるなど食事の形態を工夫してみると誤嚥しにくくなる場合があります。

また食事をする姿勢などでも誤嚥を防げる場合もあります。「食事」に集中できているでしょうか？「正面を向いて食べているでしょうか？」、「ベッドの角度は丁度いいでしょうか？」、「あごが上がった状態ではないでしょうか？」

ちょっとした工夫で食事が食べられるようになる場合もありますので栄養士さんや言語聴覚士さんのいる病院などに相談してみてください。

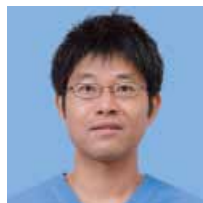
このように考えると入院中の患者さんは食欲が低下する環境に

ると思いませんか？

色のない真っ白な壁に向かって食事をして、調理をするときの美味しそうな匂いもしない、自分の好きなものも食べられない、病室にポータブルトイレが置いてあり、それを見ながら食べなければならぬことすらあります。病院という環境を考えると仕方がないかもしれませんが、私達はトイレを見ながら食事をするのでしょうか？食欲を出す一番の薬は退院かもしれせんね。

もちろん私たちが人間である以上すべての方がいつまでも口から食べられる訳ではありません。まずは適切な方に相談し、ご家族でご相談し、十分納得して方針を決めてみたらいいでしょうか。食べているときは笑顔がいっぱいです！

全国組織としては、「NPO法人 口から食べる幸せを守る会」があります。興味のある方はホームページをご覧ください。



糖尿病代謝内科
科長

谷合 久憲

小児の予防接種について

― 最近の話題など ―

日本は従来から小児期のワクチン接種の導入が遅れ、ワクチン後進国といわれてきましたが、ここ数年でようやく欧米並みの体制が整いつつあります。現在行われている主なワクチンとして、以下のものがあります。

(1) 定期接種

ヒブ（H i b）、肺炎球菌、四種混合（ジフテリア、百日咳、破傷風、ポリオ）、BCG（結核）、MR（麻疹・風疹）、水痘、日本脳炎、ヒトパピローマウイルス（子宮頸がん予防・現在は勧奨一時中止）

(2) 任意接種

B型肝炎、ロタウイルス、おたふくかぜ、インフルエンザ

ここ最近では、小児の侵襲性細菌感染症（髄膜炎や敗血症など）を予防するヒブワクチンと肺炎球菌ワクチンが平成25年から定期接種化され、死亡例や後遺症を残すことも多い細菌性髄膜炎などの患者が激減し、効果をあげています（表1）。水痘ワクチンも平成26年から定期接種化されました。また、現在は任意接種（有料）のB型肝炎、おたふくかぜなども定期接種化が検討されています。

定期接種と任意接種に別れているのは、おそらく日本だけの珍しい特徴です。しかし、どのワクチンも重要なものですので、任意接種も含めすべてのワクチン接種をお勧めします。特に由利本荘市、にかほ市では全国に先駆けてロタウイルスワクチンの公費助成を行っています。胃腸炎の重症化を予防するワクチンですが、接種時期が生後6週〜32週と限りがありますので、できるだけ接種するように心掛けましょう。

適切な時期に接種を

予防接種にはそれぞれ、感染症を防ぐタイミングに応じた適切な接種時期があります。例えば、髄膜炎などの重症細菌感染症を予防するヒブワクチンや肺炎球菌ワクチンは、患者の発症が0歳児に多いため、母親からの免疫が低下し始める生後2か月から接種を開始します。百日咳（四種混合）も乳児で重症になりやすいため、生後3か月から接種します。

また、麻疹は、生後12か月以前は母親からの移行抗体の影響でワクチン効果が十分に発揮されないおそれがあるため、生後1歳すぐの接種となっています。特に0歳児は接種するワクチンの種類と回数が多いため、現在は一度に数種類のワクチンを同時に接種する方法が一般的となっています。予防接種の効果をより確実にするため、できるだけ適切な時期に接種

表1. 公費助成前後での小児期侵襲性細菌感染症の罹患率変化（5歳未満人口10万人当たり）

	2008— 2010	2011	減少率 (%)	2012	減少率 (%)	2013	減少率 (%)
Hib 髄膜炎	7.71	3.34	57	0.59	92	0.17	98
Hib 非髄膜炎	5.15	3.00	42	0.91	82	0.10	98
肺炎球菌 髄膜炎	2.81	2.09	26	0.76	73	1.10	61
肺炎球菌 非髄膜炎	22.18	18.12	18	10.62	52	9.71	56

するようにならう。



小児科
診療科長

三浦 忍

健康講座
HEALTH GUIDE

04

認知症の経過とケアのポイント

現在認知症は、ニュースや新聞で取り上げられる身近な疾患となつていきます。認知症の中でも特に多いアルツハイマー型認知症の症状と対応について説明します。

発症して軽度の時期は数分前から何日か前の出来事を忘れることから始まります。時間や日にち、曜日の感覚が分からなくなる、約束を忘れてしまうなど、日常生活に支障が始めます。

この時期は、記憶の低下で混乱を来たしやすく自分でもおかしいと感じ、不安に思っている時期です。家族や周囲の方は、忘れたことを責めたりしないで温かく見守ることが大切です。てきないからといって普段の生活で行ってきた仕事を全て取り上げるのではなく、できることはしてもらつ、といった自信を損なわない配慮が大切です。

症状がさらに進むと、数分前の記憶だけでなく、今言ったこと

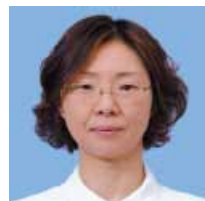
も忘れるようになり、同じことを繰り返し話したり、何度も聞いたりするようになります。そして、日にちや時間だけではなく、知っている場所に行っても土地勘がなくなり迷うことも出てきます。服の着方が分からなくなる、視力の低下がないのに食べ物を見ても目の前のものが何なのかわからないなどの症状も出てきます。そして、夜中に目覚めるなど不眠の症状も出現し、生活のリズムが損なわれるようになります。

このように日常の生活でも支障を来たすため、できないことが分からずその場を取り繕うようになります。認知症になったらすべてを忘れると思われがちですが、辛いことや嫌なこと、馬鹿にされたことなどは記憶に残りますので、楽しい感情を与えることが必要です。周囲の人は、できないことを認めそつと手助けする計らいをしましょう。

症状が進んでもできることを見つけ出し、役割と日課を決めることで普段の生活が維持できる場合もあります。症状が進行すると時計を見ることがや時間を気に留めなくなり、家族や周囲の人は、普段の生活に必要な朝・昼・夜という一日のサイクルを伝えることを毎日の日課にして、規則正しく過ごせる環境にしましょう。

認知症になっても、昔から培われてきた手仕事や趣味などは、できる可能性を残しています。アルツハイマー型認知症は徐々に進行していきますが、その人らしさを維持し最期まで生きがいを持たせ、少しでも笑顔でその人らしくいられることが大切と考えます。

アルツハイマー型認知症について説明しましたが、認知症かもしれないと気になるときは、家族だけで抱え込まないで早めに医療機関を受診してみましょう。



認知症看護認定
看護師

土門 典子



青空のキャンパスに描く白い雲、秋の訪れをそっと教えてくれる

コンシェルジュ登場



総合受付に新しい顔としてコンシェルジュが登場しました。ホテルのコンシェルジュと同じように、総合受付で病院の案内を笑顔でしてくれます。病気の不安で訪れた病院玄関をくぐって最初に出会う顔に心も和むことでしょう。



院内保育所卒園式

保育所で元気に育った園児2名が卒園式の日を迎えました。

みんな、笑顔で巣立っていきました。保育所に子供を預け、心置きなく働けた親御さんたちとともに、保育士の先生方へ感謝の気持ちを伝えたいと思います。



編集後記

日本農村医学会総会が晴天に恵まれ、盛会裏に終わってからももう1年たちました。4月からは、新しい院長と看護部長のもとで心機一転がんばっています。病院を取り巻く環境は、マンパワーや経営の面で厳しさを増しています。が、若き研修医が6名来てくれたこと

で、活気を取り戻してくれています。質の高い医療をめざすという原点を忘れずに職員一同精進していく所存です。最後に、由友創刊号から26号まですべての号ですばらしい写真を提供してくれた写真室の須田さんに心から感謝いたします。